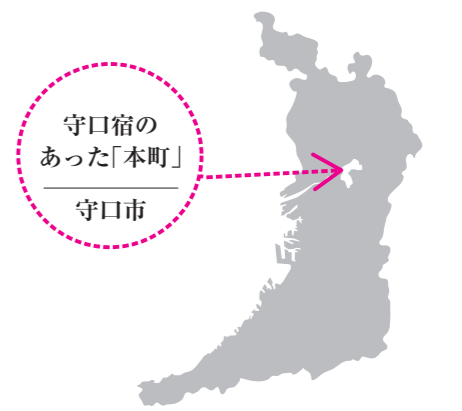


うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 06



ここが「守口市のおへそ」
にあたる場所

守口市の「本町」は、またの名を「堤の町」といい、文禄堤のあったところです。文禄堤は、豊臣秀吉が淀川の氾濫を防ぐために作らせた堤で、堤防の上は大坂と京都を結ぶ最短経路である京街道（または大坂街道）として安定した交通路となっていました。

東海道「五十七次」 五十七番目の宿場

東海道は江戸・日本橋から三条大橋までの五十三次とされていますが、伏見、淀、枚方、守口の4宿を加え京街道も含んだ場合は、東海道五十七次とされました。



京街道を示す石碑と看板。文禄堤は国道1号線につながっています

守口宿は、元和二年（1616年）12月18日には、東海道五十七次最後の宿場となりましたが、最終地点である大阪市中央区高麗橋東詰まで約2里、枚方宿へ3里の距離にあったため、問屋場1軒・本陣1軒、旅籠屋が27軒とごちんまりとした宿場でした。街道は、当初から馬継ぎはなく人足のみの勤めでしたが、淀川の舟運の発展につれて次第に貨客を奪われ、宿場の運営に影響を与えました。しかし一方で、清滝街道（現国道163号）の分岐点だったこともあり、旅籠や茶屋が立ち並ぶなどして繁栄した側面もありました。現在も、町の中心を「本町」と呼んできた守口には、宿場町の面影を残す家並みなど歴史の数々が残っています。

Culture Navi かるチャナビ

平和の種まく人 06 九条の花を咲かせよう

小松 正明さん(大阪原水協事務局長)

「教育と平和は切り離せません。修学旅行には必ず、原爆が投下された広島・長崎や、地上戦が行われた沖縄を選びます。反抗的な子どもたちも、現地の悲惨な話に真剣に耳を傾け「人間にとって大切なものは何か」を探ろうとします」。その子どもたちから、37年間の教員生活最後の卒業式の日「小松先生卒業おめでとう。卒業後は平和運動に頑張っ



「子どもたちの心を開く教育」ができる街・大東をつくりたいと語る小松さん

てください」という卒業証書をもらい、とてもうれしかったです」と語る小松さん。そして、2010年4月に大阪原水協事務局長に就任しました。

「戦前への道」は許さない

今年のピクニデーでは、昨年の東日本大震災での原発事故が大きな焦点になりました。「ごまかし」と「脅迫」で推進してきた原発政策。「戦前は、この手法で国民を戦争へと引きずり込んでいきました。今も、『大阪維新の会』や橋下大阪市長は『教育基本条例』で戦前の教育に引き戻そうと狙っています。私は、これからもこの流れに歯止めをかけ、歴史を動かす一端を担っていくつもりです」と、熱い決意でしめくられました。

平和運動がんばって—生徒からの「卒業証書」

歌舞伎「三人吉三廓初買（さんにんきちざぐるわのはつがい）」のお嬢吉三のセリフです。作者は幕末から明治にかけて活躍した河竹黙阿弥。女装の賊・お嬢吉三が通りすがりの夜鷹を殺害して金を奪って来たところ、なんと百両もあったとご機嫌に言い、「こいつあ春から縁起がいいわえ」のセリフでしめくります。

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

こいつあ春から縁起がいいわえ
河竹 黙阿弥 (歌舞伎作家)

芸術は、表現者の側から言えば、教師が弟子に伝授します。弟子はその通り表現しようとするが、現れたものは弟子個人の音楽なのです。また、聴く側について言えば、悲しみを表現した音楽を聴いても、楽しい音楽に聞こえることも多々あるものです。

9・11事件を背景に少年の再生物語

2001年9月11日におこったニューヨークの「同時多発テロ事件」。いまだに記憶に新しいのですが、この事件を背景にした映画は多くありました。この映画もそのひとつです。

「9・11」で大好きな父親を亡くした少年のオスカー。あの日、WTCビルにいた父親は被災しながらも自宅に電話をかけ、家族に必死のメッセージを留守番電話に残していました。どうしても父親の死を受け入れることができないオスカーですが、ある日、父親の部屋のクローゼットから1本の鍵と新聞の切れ端を見つけました。新聞の隅に書かれていたのは「black」の文字。鍵は何を開ける鍵なのか？「black」は黒人のことなのか。鍵と新聞

も宣伝効果でしょうか。

を手に、父親の残したメッセージを探しに奔走するオスカー少年。メッセージを見つけたことができるのでしょうか。父親との絆を勇気に変えて、行く先々でのさまざまな困難とトラブルを乗り越えていく少年の行動と姿に訴えるものがあります。そして、意外なところで母親の存在感も発揮されます。トム・ハンクス、サンドラ・ブロックの両アカデミー賞俳優が両親役に、その子ども役のトーマス・ホーン少年が新鮮です。映画のタイトルに驚きますが、原題(extremely loud and incredibly close)をそのまま直訳したものです。タイトルを思い出すにもすぐにでてこない難儀なものです。それも宣伝効果でしょうか。

「ものすごくうるさくてありえないほど近い」



16mmフィルムが

音楽の本質は公約数的なものではなく、非常に個人的なもので成り立っていると思う
小澤 征爾 (指揮者)